



たづがね (鵜が音)

「笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい」の西北台っ子



くめざす学校像>について

「一人一人が輝き出番のある学校 ～ GRIT up で ウェルビーイング ～」

昨年度はサブタイトルを、～子どもの 教職員の ウェルビーイング ～としていました。今年度はバージョンアップし、【 GRIT (グリット) up 】と掲げました。

GRIT とは、アンジェラ・リー・ダックワース氏が提唱した言葉で、「やり抜く力」または「粘る力」と定義されています。困難に遭ってもくじけない闘志、気概、気骨などをあらわします。また、生まれもった才能である「知能は関係がない」「失敗を恐れず挑戦することが重要」「長期間、継続的に粘り強い努力を要する」という考え方で、後天性のもので努力を重ねることで、物事をやり抜く力のことをいいます。「才能やIQ（知能指数）や学歴ではなく、個人のやり抜く力こそが、社会的に成功を収める最も重要な要素である」といわれ、今後の人生において必要とされる能力だと示しています。

Guts（度胸）：困難なことに立ち向かう

Resilience（復元力）：失敗しても諦めずに続ける

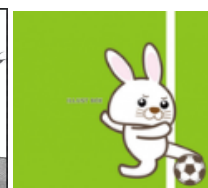
Initiative（自発性）：自分で目標を見据える

Tenacity（執念）：最後までやり遂げる

この4つの言葉の頭文字をとった言葉です。

よいGRIT を構成する要素として挙げられるのは、【情熱】【幸福感】【目標設定】【自制心】【リスク・テイキング】【謙虚さ】【粘り強さ】【忍耐】の8つです。

そして、このGRIT を育てるために重要なことは以下の6つだと言われています。



- 1 今より少し難しいことに挑戦する → GRIT の能力は飛躍する
- 2 成功体験を積み上げる → 自己肯定感・自己効力感を高める
- 3 挑戦する事柄は変えてもよいとする → 柔軟に挑戦を変えていくことでもよい
- 4 GRIT をもつ、もちたい人と行動を共にする → 自分や周りのグリットをより高められる
- 5 GRIT をもつ人をトップがたたえる → 組織全体におけるグリットへの意識が高まる
- 6 短期だけでなく長期目標を視野に入れる → 「今やっていることをやり抜く」ようにする

【<https://www.kaonavi.jp/dictionary/grit/>より】

このようなことから、これからを生き抜いていくために、また、次年度の羽咋小との統合で、大人数の中でも自分の力を発揮できる西北台っ子であってほしいとの願いを込めて掲げさせていただきました。そのためにも今年度は、あらゆる場面で挑戦している児童に励ましの言葉をかけ、最後まで諦めずにやり切った児童を賞賛していきます。また、挑戦してうまくいなくても、そこから新たな学びが生まれればそれは失敗ではないことを伝えていきます。ご家庭でも子どもの「やってみたい」を大切に、支援していただきますようよろしくお願いします。